

第1章

生涯にわたる健康と支えあいで 元気があふれるまち

（医療・福祉・保健）



秩父市立病院

政策1 地域医療の充実

現状と課題

- 二次救急医療体制の堅持、産科医療の確保など、地域医療体制の確保に向けた取組を進めていますが、医師や看護師等の医療スタッフが不足し、体制維持に対する負担が増えています。また、分娩数が減少傾向にあるため、産科医療機関の維持に向けた継続的支援が必要です。
- 秩父市立病院は、秩父地域の中核病院として地域内外の医療機関等と連携し、より良い医療サービスの提供に努めていますが、医師や看護師等の医療スタッフの不足が大きな問題であり、診療科によっては、常勤医の不在や、一部の診療を制限せざるを得ない状況等が生じています。また、建物や設備の老朽化が深刻なため、建替えが必要な状況になっています。
- 国民健康保険及び後期高齢者医療の被保険者の医療受診や年金受給等の権利を確保するために、適正な資格管理、事務処理を進めることが求められている中、一人当たり医療費が上昇傾向にあることから、被保険者の健康維持・増進と国保財政の健全運営が課題となっています。

現況データ

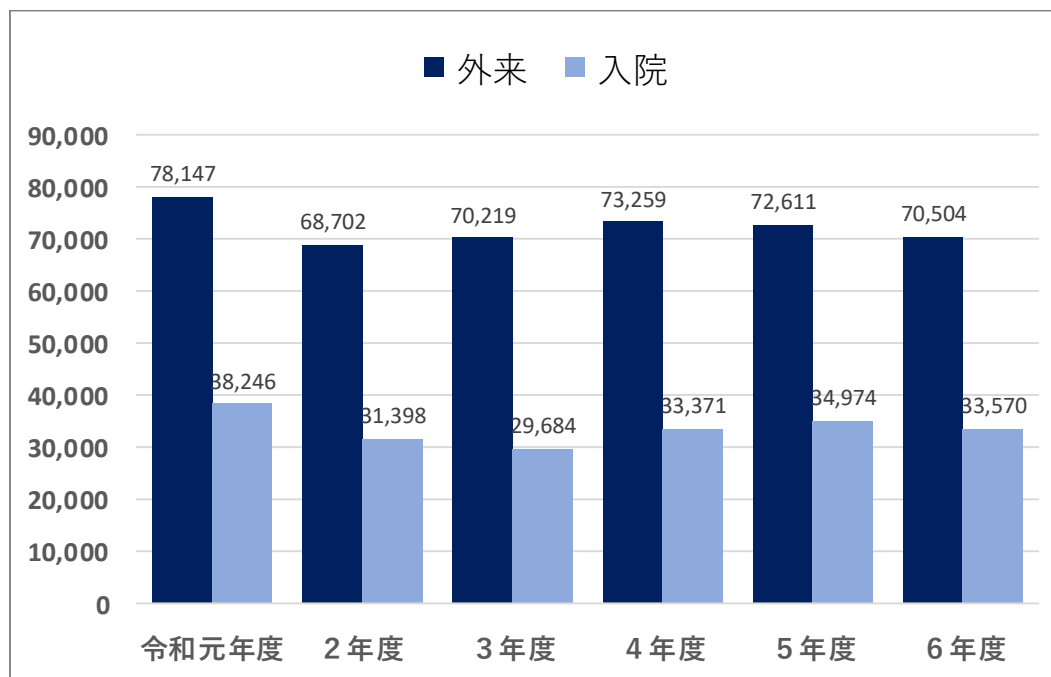


図1 秩父市立病院患者数の推移(人)

施策の方向性



(1)医療体制の整備

- 二次救急医療体制の堅持に加え、地域医療体制の充実を図るため、関係機関と連携を強化し医師及び医療スタッフの確保に取り組みます。
- 圏域内唯一となっている産科医療機関を、県や医師の派遣元医療機関等と連携し維持していきます。

(2)市立病院の充実

- 地域の中核病院として、より良い医療サービスの提供に努めるため、医師や看護師等の確保を積極的に進め、診療内容の充実を図るとともに、救急医療体制を維持していきます。
- 建物や設備の老朽化が深刻な状況であるため、早急かつ着実に新病院建設の準備を進めていきます。
- 市内産科医療機関へ助産師の派遣、地域医療連携室を中心とした多職種連携等を継続していきます。

(3)医療保険・年金の運営

- 特定健康診査事業等へ参加しやすい環境づくりを進め、更なる参加者増加を図ります。また、健康増進事業、特定保健指導事業、糖尿病性腎症重症化予防事業、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業など健康増進に向けた各種事業を実施し、医療費の削減に努めます。
- 県や埼玉県後期高齢者医療広域連合、秩父年金事務所と連携を強化し、施策の実効力向上に努めます。

施策の目標値

達成指標	現状実績	R8	R9	R10	R11 目標
市立病院受入患者数					
(上段)[外来]	70,504人(R6)	73,000人	73,500人	74,000人	74,500人
(下段)[入院]	33,570人(R6)	38,700人	38,800人	38,900人	39,000人
特定健康診査受診率(※)	37.6%(R6)	52%	55%	58%	60%

※国保加入者のうち40歳以上75歳未満の方の受診率

政策2 福祉の充実

現状と課題

- 福祉施策は、令和6年度実施の市民意識調査において、重点化ゾーンに含まれ、高齢者福祉と障がい者福祉の充実は、前回令和4年度調査時より、重要度が増して満足度が下がっています。
- 社会福祉分野において、コロナ禍以降、ひきこもりを始めとした孤独・孤立状態にある方の問題が顕在化しています。また、就労可能な生活保護受給者に対して、早期の就労に繋げることを目的に、今後も就労支援に重点的に取り組む必要があります。
- 高齢者福祉分野において、高齢化率は、令和3年度(34.04%)から令和6年度(35.39%)にかけて1.35%増加しており、この実情に伴い認知症の方も増加しています。また、要介護高齢者が安心して介護サービスを利用するためには、それを担う人材が必要ですが、人材不足が懸念されています。
- 障がい者福祉分野では、令和5年度末に地域生活支援拠点等として、地域の事業所等が役割を分担する形で相談機能や緊急時の受入れ体制などについて整備しましたが、その体制が機能するためには継続した協議が必要です。また、今後も障がい者への理解促進を図る取組の継続が必要です。

現況データ

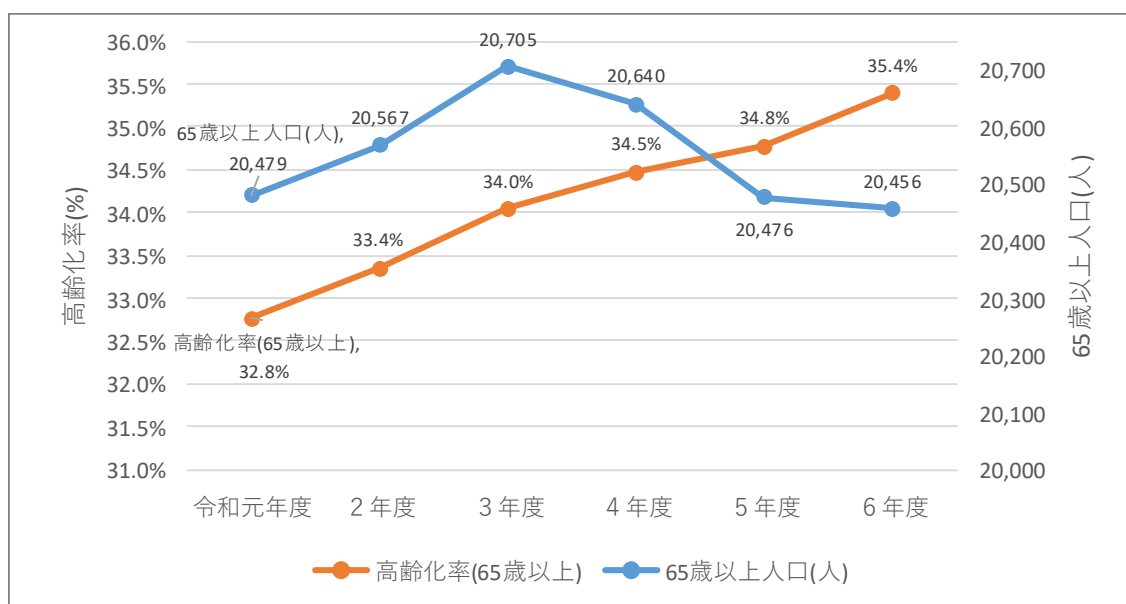


図2 秩父市における高齢化率と高齢者人口の推移

施策の方向性



(1)社会福祉の充実

- 孤独・孤立状態にある方の社会参加を推進することで将来的に生活困窮者を減らすことを目指します。
- 生活困窮者やひきこもりの相談支援において、対象者に応じて適正な援助・相談・指導を行い、自立に向けた支援を行います。

(2)高齢者福祉の充実

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちづくりの実現のため「ちちぶ版地域包括ケアシステム」を更に推進します。
- 介護が必要になっても地域で安心して生活できるよう、介護保険事業の安定的・継続的な運営と介護サービスの充実に努めます。

(3)障がい者福祉の充実

- 地域全体で障がいに関する理解を深め、共生社会の実現を目指します。
- 障がいのある方が安心して地域生活を送れるよう「秩父地域自立支援協議会」で協議を重ね、地域課題の解決と障がい福祉施策の充実に取り組みます。

施策の目標値

達成指標	現状実績	R8	R9	R10	R11 目標
就労支援プログラムによる自立達成率	10.0%(R6)	14.0%	16.0%	18.0%	20.0%
認知症サポーター養成講座年間受講者数	170人(R6)	200人	200人	200人	200人
あいサポーター研修会参加者数(累計)	1,630人(R6) 1市4町の実績	1,800人	1,900人	2,000人	2,100人

政策3 保健サービスの充実

現状と課題

- 死亡や要介護者、医療費の増加要因として、生活習慣病が大きな割合を占めています。健康寿命の延伸や医療費の削減には、定期的な健康診査の受診や生活習慣病のリスクを低減する生活を意識し実践できるようになることが必要です。
- 「健康寿命の延伸」を目指すためには、若い世代からの健康づくりや市民の主体的な健康づくりの促進につながるような啓発や各種事業の展開が必要です。
- 乳幼児期は、生活習慣や人格形成の基礎が作られる大切な時期です。子育てに関する正しい知識の普及とあわせ、地域ぐるみの育児支援を進める必要があります。

現況データ

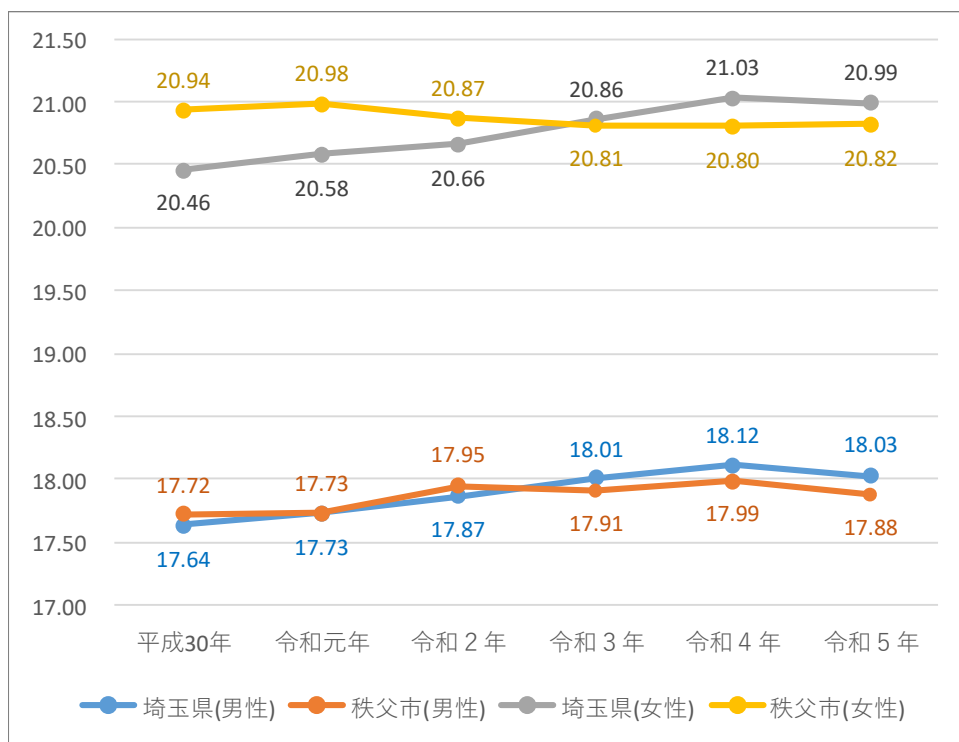


図3 埼玉県版健康寿命(※)の推移（単位:年）

※65歳から「要介護2」になるまでの期間

施策の方向性



(1)生活習慣病の発症予防・重症化の予防

- がんや生活習慣病予防を含む健康に関する知識の普及啓発を、イベントや教室の開催、ICTの活用などにより推進します。また、個人の健康状態や年齢、生活状況に応じた相談・指導を行い、継続的な健康管理を支援します。
- 各種健診(検診)などの周知や受診勧奨、受診体制を整備することにより、受診を促します。
- 健康推進員や食生活改善推進員、町会等と連携を図ることにより、地域での健康づくりを進めます。

(2)ライフステージを踏まえた健康づくり

- 妊娠期から高齢期までの各世代において、市民一人ひとりが生涯を通じて、望ましい生活習慣を身に付けられるよう、健康づくり計画「健康ちちぶ21(第3次)」により取り組みます。
- 各世代の健康状態や疾患の有無を把握することにより、必要な支援につなぐことや望ましい生活習慣を身につけられるよう支援します。

施策の目標値

達成指標	現状実績	R8	R9	R10	R11 目標
健康管理アプリ登録者数	2,371人 (R6)	4,300人	4,900人	5,500人	5,800人
乳幼児健康診査受診率(※)	96.0% (R6)	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%

※市の集団健診(4か月児・10か月児・1歳6か月児・3歳児)における受診率

第1章 生涯にわたる健康と支えあいで元気があふれるまち（医療・福祉・保健）